

令和5年度事業報告
～第4次中期経営計画成果指標達成率を中心として～

令和5年度は、新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行後も、利用者の皆様の検温、体調チェックを継続して行い感染予防に取り組みながら、指定管理業務、相談支援業務の確実な事業実施に取組んだ。

また、職員参加のもと、職員の成長モデル「私たちのみちしるべ」を策定し、今後の人材育成のツールとして活用を図りながら、さらなる利用者支援の充実に努めることにしている。

なお、仙台市からの相談支援委託事業が消費税の課税事業として処理することとなったことから、法人内の他の収益議業についても課税対象となったため、平成30年度に遡って消費税納付の手続きを行った。

職員の雇用関連としては、高年齢者雇用安定法の施行に伴う65歳定年制の導入、人材確保を目的とした初任給並びに嘱託職員の給与改定に取組んだ。

I 精神障害者支援の推進

1、自立訓練(生活訓練)・宿泊型自立訓練事業(ウインディ広瀬川 定員20名)

※()内は前年度の数値

実施項目	成果指標	実績	達成度
1. 入院からの自立訓練(生活訓練)・宿泊型自立訓練事業 新規利用者数	6人	5人 (2人)	83%

病棟に出向いたインテーク面接の実施や利用者の事情等に合わせた短期間の体験利用を行なうなど柔軟な利用手続きを行った結果、入院から5名の利用者を受け入れた。

2. 生活訓練から地域生活への移行者数(ウインディ広瀬川)	8人	8人 (6人)	100%
-------------------------------	----	------------	------

グループホームへ4名、自宅復帰が2名、単身生活へ2名が移行した。グループホーム移行については見学及び体験利用等の調整、送迎対応を行い、障害者相談支援事業所等と連携を取りながら支援を行い、単身生活移行者についても引っ越し等の対応や必要物品等の購入についてサポートした。地域移行後3か月間は利用者の希望に応じてアフターフォローを行い、不安や心配に寄り添いながら支援を行った。

3. ウィンディ 広瀬川	自立訓練(生活訓練)	1日平均利用者数	15人	9.2人 (10人)	61%
	宿泊型自立訓練	1日平均利用者数	15人	9.1人 (10人)	61%

・インテーク面接や体験利用まで実施したが、不調や薬剤調整等のため保留になる利用者がおり、継続して状況確認を行っている。

・新規利用者利用促進のため、各関係機関へ空き状況の周知などを継続して行っている。また地域における会議やイベント等に参加し、事業所の周知やPRを行った。

4. 短期入所事業延べ利用者数(ウインディ広瀬川)	630人	430人 (393人)	68%
---------------------------	------	----------------	-----

相談支援事業所や医療機関等へ適宜空き状況を伝えたり、利用促進に向けた情報提供を実施した。また給食提供のない休日に弁当注文の便宜をはかるなど利用者満足度を高められるよう取り組んだ結果、延べ利用者数が増加した。

2、就労移行支援事業(パルいすみ 定員6名)

実施項目		成果指標	実績	達成度
1. 就労移行支援事業による一般就労者数		2人	0人 (0人)	0%
7名の就労支援を行った。4名は各々の事情により利用終了となり、3名の就労に向けて取組んだ。				
2. 就職後の職場定着のために支援した人数		9人	4人 (4人)	44%
1名に対し、定期的に職場を訪問して支援を行ったほか、3名に対して近況確認を行いながら支援を行った。				
3. 就労移行支援事業の利用者数	パルいすみ 定員6名	1日平均利用者数	5人	1.9人 (2.6人)
		延べ利用者数	1,200人	471人 (626人)
身体面の治療などにより、就労継続支援B型利用に切り替えたことなどが影響し、昨年度実績を下回った。				

3、就労継続支援B型事業(パルいすみ 定員24名 パル三居沢 定員20名)

実施項目		成果指標	実績	達成度
1. 就労継続支援B型事業の利用者数	パルいすみ 定員24名	1日平均利用者数	18人	11.1人 (10.9人)
		延べ利用者数	4,320人	2,695人 (2,650人)
	パル三居沢 定員20名	1日平均利用者数	18人	8.9人 (8.4人)
		延べ利用者数	4,320人	2,156人 (2,052人)
利用者が安心して通所し、自らの目標に向けて意欲を維持しながら利用を継続できるよう、定期面接や体調確認、欠席時の連絡などを実施した。				
2. 就労継続支援B型事業の工賃	パルいすみ	平均月額	12,500円	14,081円 (9,865円)
	パル三居沢	平均月額	11,000円	14,113円 (11,289円)
パルいすみでは、優先調達法に基づく単価の高い受託作業実施したことと自主製品事業の収入が向上したこと、パル三居沢では新規の受託作業受注したことなどにより、工賃の平均月額が向上した。なお、令和6年度の報酬改定により、工賃平均月額の算定方法が変更(「総支払工賃額/延べ支払対象者数」から、「総支払工賃額/12/開所日1日当たりの平均利用者数」)になり、その方法を用いるとパルいすみは25,373円、パル三居沢は23,787円の工賃平均月額となった。				

4. 障害者相談支援事業(ほっとすペーす)

実施項目	成果指標	実績	達成度
1. 相談支援事業延べ利用件数	4,000件	6,572件 (5,914件)	164%
249名の利用者(うち61名が新規)が利用しており、302回の訪問、59回の面接、113回の同行支援を実施。また、個別支援会議を774回、関係機関との連絡調整を1,934回、その他電話相談等の支援を合わせ延べ6,572件の支援を行った。			
2. 相談支援事業における入院から退院に向けた支援の利用件数	60件	70件 (50件)	117%
入院中の利用者の退院へ向けた支援として70回の訪問を実施し、22名の利用者が退院した。			
3. 仙台市の各種協議会等への参加回数	25回	58回 (52回)	232%
サポネットあおば(青葉区障害者自立支援協議会)の事務局として運営会議に参加するとともに、実務者ネットワーク会議の実施や地域展開チームとして「くにみゆるっとつながろうの会(支援に関わっている個人や団体の得意分野を活かし地域の暮らしを支えるためのつながりの場作り)」や「貝ヶ森だヨ!全員集合ふらっと寄りみち軽体操(年齢や障害の有無にとらわれない地域住民の集い)」を実施した。			
4. 計画相談利用実人員	100人	91人 (84人)	91%
個々の状態に応じた継続的な支援を障害福祉サービス事業所や行政、医療機関と連携し、実施した。			

II 公益的取り組みの実施

実施項目	内 容		
		(法人)	
1. 地域的取り組み 各種団体との連携事業等	・仙台男女共同参画推進センターが主催する、「女子のためのほっとスペース」事業に8月4日に職員2名、10月22日に職員3名を派遣し、来場者の相談対応を行った。 (ほっとすペーす) ・ほっとすペーす講演会を「8050問題」をテーマにケアマネージャーと当事者を講師として実施した他、一般社団法人コスモス成年後見サポートセンター研修会や仙台市立立町小学校社会学級に講師として参加した。 (ワインディ広瀬川・パル三居沢) ・青葉区障害者自立支援協議会の実務者ネットワーク会議(サポネットあおばの集い)に参加。 (パルいすみ) ・地域医療福祉連携の会の世話人会への出席、会の運営実施。 ・泉区障害者自立支援協議会の実務者ネットワーク会議(よめごと会議)に参加。 ・泉ヶ丘小学校バザーへ、地域の事業所として参加。 ・泉ヶ丘地区社会福祉協議会17名の事業所見学の受入。		
	社会福祉士ソーシャルワーク実習	18人	令和4年度に専門職養成機関に実習受け入れに関する周知を行った結果、新たに社会福祉士ソーシャルワーク実習の受け入れを行うなど、令和4年度を大きく上回る実績を得ることができた。 ワインディ広瀬川:精保4名、看護72名 パルいすみ:精保7名、看護133名 パル三居沢:社福8名、精保5名、看護122名 ほっとすペーす:社福10名
	精神保健福祉援助実習	16人	
	精神看護実習	327人	
2. 実習生の受け入れ	計	361人	

III 法人運営の強化

1. 健全な財務規律の確立

給付費(障害福祉サービス費:仙台市収入)		成果指標	実績	達成度
ワインディ広瀬川	自立訓練(生活訓練)	28,600千円	18,138千円 (19,762千円)	63%
	宿泊型自立訓練(定員20名)	24,600千円	19,322千円 (19,040千円)	79%
	短期入所(3名)	5,500千円	3,444千円 (3,369千円)	63%
パルいづみ	就労移行支援(定員6名)	6,300千円	2,322千円 (3,424千円)	37%
	就労継続支援B型(定員24名)	23,300千円	14,750千円 (15,210千円)	63%
パル三居沢	就労継続支援B型(定員20名)	25,000千円	13,539千円 (12,521千円)	54%
指定管理事業として行う障害福祉サービス事業に対する給付費で、仙台市の収入として処理されている。当法人においても、中期経営計画において成果指標を設定し、事業運営にあたることとしており、加算対象となる利用者の積極的受け入れや工賃向上による就労継続支援B型事業の給付費単価の維持向上、利用者の増員等の取り組みの強化により給付費の増を図っていく。				

2. 人材の育成

実施項目	
1. 法人職員研修の実施	
【法人内職員全体研修】 ・令和5年 9月15日:コンピテンシーモデル検討のためのグループワーク ・令和5年10月 6日:こころと体のリフレッシュ(健康講話・ストレッチ・軽体操) ・令和5年11月17日:障害者虐待防止研修・ハラスメント防止研修 ・令和5年12月21日(ワインディ広瀬川は令和6年1月11日):虐待防止研修(事業所ごとに実施) ・令和6年 2月 1日:虐待防止研修(アンケートを基に各事業所で実施した研修の共有) ・令和6年 3月22日:「諸規程改正の概要」、「安全対策、広報委員会報告」、「事業の振り返り」等 ・ほっとすペーす、ワインディ広瀬川において従来より行っていたケース検討会に、他事業所でもZoom等で参加	
2. 人事評価の実施	・職員評価表による自己評価、管理職による評価 ・自己申告書に基づく職員の意向把握
3. 「私たちの行動基準」の具体化	私たちの行動基準に基づき、職員それぞれが毎月の行動目標を定め、管理者との1on1ミーティングを通して振り返りを行ながら、行動基準の具体化を図った。

3.リスクマネジメントの推進等

実施項目	
1.情報公開の充実	法人会報を発行(令和5年7月、令和6年1月)し、財務状況、各事業所の活動報告を行った。また、ホームページにおいても、財務状況を公表するとともに、個人情報保護規程、ハラスメント防止指針、虐待防止対応規程を掲載している。 さらに、ホームページブログを週1回更新し、日々の活動内容等を発信している。
2.虐待防止の取組	・虐待防止委員会を3回(8月7日、12月4日、12月7日)開催し、職員1名の利用者対応の検討を行い、虐待に通ずる不適切な対応として結論し、虐待の芽に各職員が自覚し、より適切な支援を行うため、虐待防止に関するアンケート及びその結果を基にした研修を実施した。 ・各事業所において、虐待防止チェックリストを用いて、毎月職員全体で確認した。
3.BCP(事業継続計画)の取組	令和5年度におけるCOVID-19対策については、5月の5類移行後も体温、体調チェック、必要に応じた抗原検査の実施を行った。その結果、利用者の感染は0であった。また、大規模災害(震災、風水害)時のBCPについては、令和5年度策定に向け作成を進めた。
4.個人情報保護の取組	仙台市主催の研修に参加、また、日常的には安全対策委員会におけるウイルスチェックなどにより、情報の外部漏洩の防止に努めた。
5.防災訓練・消防訓練の実施	令和6年3月5日、法人全体の防災訓練を実施。訓練は、パルいすみとウインディ広瀬川に設置されている防災無線を活用して行うなど、実際の災害時の動きの確認を重視した訓練を実施した。また、各事業所においても、消防計画に基づく消防訓練を実施した。

IV.評議員会、理事会及び評議員選任・解任委員会の開催状況

(1)評議員会

開催日	内 容
定時評議員会 令和5年6月16日	<p>議 案</p> <p>第1号議案 令和4年度計算書類(貸借対照表及び収支計算書) 及び 財産目録の承認について</p> <p>第2号議案 理事及び監事の選任について</p> <p>報告</p> <p>第1号報告 令和4年度事業報告について</p> <p>第2号報告 評議員選任結果について</p> <p>その他</p> <p>(1) 令和5年度事業計画について</p> <p>(2) 令和5年度収支予算書について</p>

(2) 理事会

開催日	内 容
第1回定時理事会 令和5年5月31日	<p>議 案</p> <p>第1号議案 令和4年度事業報告及び決算の承認について 第2号議案 令和5年度補正予算の承認について 第3号議案 評議員会の日時及び場所並びに議事に付すべき事項について 第4号議案 評議員候補者の選定について 第5号議案 評議員選任・解任委員会の開催について</p> <p>報 告</p> <p>第1号報告 理事長専決事項について 第2号報告 理事長の職務執行状況について 第3号報告 常務理事の職務執行状況について</p>
第1回臨時理事会 令和5年6月21日	<p>議 案</p> <p>第1号議案 理事長の選定について 第2号議案 常務理事の選定について</p>
第2回臨時理事会 令和5年8月17日	<p>議 案</p> <p>第1号議案 管理職の人事について 第2号議案 社会福祉法人緑仙会指定障害福祉サービス事業運営規程の一部を改正する規程について 第3号議案 社会福祉法人緑仙会短期入所事業運営規程の一部を改正する規程について</p>
第2回定時理事会 令和5年9月12日	<p>議 案</p> <p>第1号議案 社会福祉法人緑仙会定款施行細則の一部を改正する規則について 第2号議案 退職積立金の取り崩しについて 第3号議案 社会福祉法人緑仙会アルバイト職員就業規則の一部を改正する規則について</p> <p>報 告</p> <p>第1号報告 理事長の職務執行状況について 第2号報告 常務理事の職務執行状況について 第3号報告 令和5年度第1回虐待防止委員会について</p>
第3回定時理事会 令和5年12月7日	<p>議 案</p> <p>第1号議案 令和5年度補正予算の承認について</p> <p>報 告</p> <p>第1号報告 理事長の職務執行状況について 第2号報告 常務理事の職務執行状況について 第3号報告 障害者虐待防止の取組みについて 第4号報告 給与の改定について 第5号報告 令和5年度指定障害福祉サービス事業所等実地指導の結果について 第6号報告 職員採用について</p>
第4回定時理事会 令和6年3月27日	<p>議 案</p> <p>第1号議案 令和5年度補正予算の承認について 第2号議案 令和6年度事業計画の承認について 第3号議案 令和6年度収支予算の承認について 第4号議案 評議員選任・解任委員会運営細則の一部を改正する規則について 第5号議案 職員就業規則の一部を改正する規則について 第6号議案 定年等に関する規程について 第7号議案 職員給与規程の一部を改正する規程について 第8号議案 嘱託職員就業規則の一部を改正する規則について 第9号議案 経理規程の一部を改正する規程について 第10号議案 人事評価に関する規程の一部を改正する規程について</p>

第11号議案	指定障害福祉サービス事業運営規程の一部改正について
第12号議案	短期入所事業運営規程の一部改正について
第13号議案	事務長及び管理者の選任について
報告	
第1号報告	理事長の職務執行状況について
第2号報告	常務理事の職務執行状況について
第3号報告	職員の初任給、昇格、昇給等の基準に関する要領について
第4号報告	職員の懲戒処分等の手続きに関する指針について
第5号報告	障害者虐待防止に係る実施報告(仙台市)について
第6号報告	令和5年度社会福祉法人一般監査の結果について

(3) 評議員選任・解任委員会

評議員選任・解任委員会 令和5年5月31日	議案 社会福祉法人緑仙会評議員の選任について
--------------------------	---------------------------

V. 苦情関係

苦情に関する申出はなかった。

VI. 人事関係

(1) 職員採用状況

職員1名採用 ウインディ広瀬川に令和6年4月1日配属

(2) 表彰関係

全国社会福祉協議会会长表彰

嶺岸 弘

遠藤 優子

宮城県社会福祉協議会会长表彰

村岡 弥生

(3) 安全衛生関係

職員全員の健康診断を実施したほか、各事業所において外部保健師による健康診断の事後指導を実施した。

VII. 管理者会議並びに管理者・係長合同会議等

管理者会議は毎月1回実施、管理者・係長合同会議は8月、11月、3月に実施し、法人の経営及び事業運営に係る企画、各事業所の運営課題の検討や情報交換等を行った。また、係長会議において職員の成長支援を目的とした職員のコンピテンシーモデルの検討及び策定を行った。

令和5年度 自立訓練（生活訓練）・宿泊型自立訓練事業所 ウインディ広瀬川事業報告

利用者一人ひとりの障害特性に応じた生活訓練を実施しながら、本人が希望する地域生活への移行を支援した。また、余暇活動の充実や自己表現の促進を図り、主体的な生活意欲を引き出すことにより生活訓練の成果が上がるよう支援した。

新規利用者の受入れについては、病棟に出向いてインターク面接を実施したり、利用者の事情に合わせて短期間の体験利用を行うなど柔軟に利用手続きを行いながら9名の利用者を受入れた。

短期入所事業については、利用者や家族のニーズに合わせた柔軟な支援や環境整備等を行いながら利用率の向上を図り、延べ利用者数は昨年度より漸増した。

I 事業内容

1. 自立訓練（生活訓練）・宿泊型自立訓練事業

入院中の精神障害者に対する新規利用の促進を目的に、入所に向けた体験利用を5名に対し延べ41日実施。入院からの利用者が5名、在宅からの利用者が4名で計9名の利用者を受け入れた。

（1）生活訓練

地域で自立した生活を送れるよう、自炊の練習や週間予定表の作成による生活習慣作り、買い物時のお金の計算練習など個々の利用者の特性に応じた生活訓練プログラムを提供した。また、毎月実施している利用者アンケートの結果に基づいてプログラムを構成したり、外出プログラムの行き先を選定するなど利用者の希望に合わせて実施した。

集団プログラム	項目	内 容 () は頻度または実施回数
	生活技術	館内清掃（毎日） 調理実習（週1回） 生活講座（月2回程度）※別表参照
	外出訓練	公共交通機関を使用した外出（年14回）
	健康維持	ラジオ体操（毎日）、スポーツ（週1回） ニュースボーツ（月1回） 感染症や生活習慣病等に関する講話（年1回程度）
	教育・学習	ポジティブワーク（月1～2回）
	余暇支援	園芸プログラム（月2回程度） お菓子作り、ランチ会、バーベキュー（月1回程度） 季節の行事（年6回） ・お花見（4月）　　・バス旅行（10月） ・七夕まつり（8月）　・クリスマス会（12月） ・芋煮会（9月）　　・豆まき（2月）
	社会参加	アレマ隊（広瀬川河畔の清掃活動）（月1回程度）
	対人交流	コミュニケーション教室（月1回）

個別支援プログラム	掃除・整頓、清潔保持、調理、通院支援、買物支援、制度利用支援、体調管理、服薬管理、金銭管理、余暇支援、対人関係についての支援を実施
-----------	---

別表：生活講座は以下の内容で実施した。

月	内 容	月	内 容
4月	節電節水・ごみの分別、掃除	10月	悪徳商法
5月	余暇の過ごし方、衣替え	11月	感染症、冬場の服装、大掃除
6月	整理整頓、生活習慣病	12月	制度やサービス、お金の使い方
7月	熱中症、生活リズム	1月	相談支援事業所、就労支援事業所
8月	洗濯（グループ毎実施）	2月	食事バランス、食品保存方法
9月	無し	3月	収納

（2）宿泊訓練

個別支援計画に基づき、以下のとおり利用者の特性に合わせて支援した。

①就寝・起床、食事、入浴等の生活リズムの確立

規則正しい生活が身につくよう、就寝、起床、入浴、食事準備の際に声掛けや見守りの支援を行った。生活リズムを整えるため、プログラムに休まず参加することや、疲れを溜めないような生活に向けた助言をしたり、毎月の振り返りの中で血圧・体重測定などを実施した。

②整容、洗濯、居室整理、ゴミ分別・ゴミ出し等衛生面の習得

洗濯物の量を確認して適切な頻度で洗濯に取り組めるよう助言、指導を行った。

利用者全員の居室を月1回点検し、必要に応じて助言、指導を行った。

浴室やトイレの清掃は、利用者1名につき月3～4回程度行えるように当番制で実施した。

③服薬管理

利用者の意向を尊重し、希望者には事務室での管理を行いながら、それぞれの利用者の特徴に合わせてステップアップをしながら自己管理に向けた訓練を行った。

④金銭管理

予算内での管理が難しい、計画を立てるのが苦手等、個々の利用者の特徴や状況に合わせて訓練を行った。家族や関係機関からもアセスメントを行いながら、効果的な訓練を提供できるよう配慮した。

（3）地域生活への移行支援

地域生活への移行者数は、中期経営計画の目標通り8名となった。

①家族・関係機関との意見調整

本人を中心に、家族、医療機関、相談支援事業所、保健福祉センター、グループホーム等の関係機関と十分な意見調整を行いながら、地域生活への移行を支援した。

利用中の目標確認、退所に向けた準備等を目的としたケア会議を開催したほか、随時サービス担当者会議に参加し退所後の生活についての検討を行った。

②退所先住居の確保

利用者の希望に沿って、アパートやグループホームの見学、受け入れ先との情報共有、申請手続き等の支援を行った。必要に応じて体験利用の調整や送迎の支援も行った。結果、2名の利用者がアパートでの単身生活、4名の利用者がグループホームへ移行した。

③生活保護等の相談・申請

生活保護申請に向けて、区役所への相談支援を実施。地域移行後の生活保護受給に繋がった。

④必要な在宅福祉サービスの導入

単身生活へ移行する利用者が短期入所サービスを申請。地域移行後に当事業所の短期入所利用に繋がった。

⑤地域生活における日中活動等へ向けた取組

本人の希望をもとに、就労継続支援B型事業所、就労移行支援事業所、デイケアの見学、体験利用実施等の支援を行った。その結果、3名の利用者が地域移行後に日中活動を開始した。

(4) 面接相談

①随時面接

精神的不調の訴えや、生活上の困りごと、職員からの随時の助言指導などを含め、状況に応じた生活課題に関する面接を行った。

②定期面接

全ての利用者に対して、1か月に1回以上の面接を行った。

③家族面接

家族の相談への対応や本人の状況報告、事業所の取組み説明等のため家族との面接を実施した。

(5) 健康管理

①仙台市が実施する各種健診の情報提供、受診同行、受診後の助言

仙台市市民健診の周知を行い、各種健診の受診勧奨を行なった。また精神科に限らず、内科や皮膚科などの受診同行を行ない利用者の健康管理のサポートを行った。

②体重及びバイタルチェック

利用者全員に月1回実施し、必要に応じて助言指導を行った。

③健康教育

6月に生活習慣病の予防について、7月に生活リズムや熱中症の予防について、11月に感染症についての講話を実施した。

利用者から体調不良の訴えを受けた際は、状況に応じて受診勧奨や通院同行を行った。

(6) 退所者へのアフターケア

①訪問サービス

9名の利用者が退所した。退所者のうち、アパートでの単身生活2名とグループホーム入居4名に対して、3か月間のアフターケアを実施した。必要に応じて通所事業所の見学同行、通院同行をしたり、関係機関と情報共有し、本人との関係作りや円滑な地域移行のため丁寧な引継ぎを行った。また、地域の単身生活者に対する訪問支援を6回実施した。

②電話相談、面接相談

随時実施した。

③関係機関との連絡調整

随時実施した。

(7) 実習生の受入れ・指導

東北福祉大学より4名、葵会仙台看護専門学校より72名の実習生を受け入れた。仙台徳洲看護専門学校の精神看護学実習については、職員が学校に出向き事業所説明を行った。

(8) 仙台市の協議会への参加

7月に青葉区障害者自立支援協議会「サポネットあおばのつどい」に参加した。

サポネットあおばが実施する「ゆるっく～地域でつながろうの会～（旧くにみゆるっとつながろう会）」に計4回参加した。

2. 短期入所（ショートステイ）事業

本人、家族の休息を目的に、ショートステイ事業を行った。中期経営計画目標の延べ利用者数630名に対して、430名の利用があった。

3. 地域移行支援事業における体験宿泊支援、地域定着支援事業における一時滞在支援

本年度における利用実績はなかった。

4. 利用者増の取り組み

県立精神医療センターで実施している入院患者の退院促進を目的とした「ちいきら会（地域で暮らそう座談会）」に参加。実際に病棟に伺って入院患者の困りごとや課題等を確認しながら、事業所の紹介を行った。また医療機関や相談支援事業所、各区役所等へ随時空き状況を伝えたり、しばらく利用者の紹介が無かった東北大学病院へ訪問するなどして利用促進を図った。

5. 大規模改修への対応

事業所移転に向けて使用していない備品や粗大ゴミ等の廃棄、物品整理を進めた。

II 事業実績

(令和6年3月31日現在)

表-1. 利用者状況

(人)

月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
利 用 者	宿泊型自立訓練	開所日数(日)	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	29	31	366
		利用者実人数	9	10	13	13	11	11	10	8	10	10	11	10	-
		延べ利用者数	255	264	288	344	339	311	219	213	252	289	296	276	3,346
		1日平均利用者数	8.5	8.5	9.6	11.1	10.9	10.4	7.1	7.1	8.1	9.3	10.2	8.9	9.1
		利用率(%)	43	43	48	55	55	52	35	36	41	47	51	45	46
利 用 者	自立訓練(生活訓練)	開所日数(日)	20	20	22	20	22	20	21	20	20	19	19	20	243
		利用者実人数	9	10	13	13	11	11	10	8	10	10	11	10	-
		延べ利用者数	171	172	212	222	240	207	148	143	168	180	192	178	2,233
		1日平均利用者数	8.6	8.6	9.6	11.1	10.9	10.4	7.0	7.2	8.4	9.5	10.1	8.9	9.2
		利用率(%)	43	43	48	56	55	52	35	36	42	47	51	45	46
体 驗 利 用 者	当月在籍者数(定員20名)	9	10	13	11	10	10	7	8	10	10	10	9	-	
	新規利用者数	0	1	3	0	0	1	0	1	2	0	1	0	9	
	退所者数	0	0	0	2	1	1	3	0	0	0	1	1	9	
	利用者数	1	1(1)	0	0	1	0	0	1	0	0	0	1	5	
	延べ利用者数	6	14	0	0	4	0	0	10	0	0	0	7	41	

※1 利率: 延べ利用者数 ÷ (定員 × 開所日数) × 100

※2 再掲:()内の体験利用者は、前月もしくはそれ以前の利用者と同一人物

※3 中期経営計画目標: 15人

表-2. 短期入所(ショートステイ)利用状況

(人)

月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開所日数(日)	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	31	29	31	366
利用者実人数	9	9	10	5	5	7	8	10	8	7	10	10	10	-
延べ利用者数	30	34	38	21	27	32	49	40	40	33	40	46	430	
1日平均利用者数	1.0	1.1	1.3	0.7	0.9	1.1	1.6	1.3	1.3	1.1	1.4	1.5	1.2	
利用率(%)	33	37	42	23	29	36	53	44	43	35	46	49	39	

※1 延べ利用者数: 中期経営計画目標 630人/年

※2 利率: 延べ利用者数 ÷ (定員3名 × 開所日数) × 100

表-3. 地域移行支援 体験宿泊利用者状況

(人)

月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
利用者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
延べ利用者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

※再掲:()内の体験宿泊利用者は、前月もしくはそれ以前の利用者と同一人物

表-4-(1). 新規利用者の利用前の状況 (人)

	入院	在宅	施設入所	計
男性	3	2	0	5
女性	2	2	0	4
計	5	4	0	9

中期経営計画目標: 入院からの利用6人／年

表-4-(2). 新規利用者の紹介元 (人)

	当事者・家族	区役所	その他行政機関	医療機関	相談支援事業所	福祉サービス事業所	その他	計
男性	0	1	1	2	1	0	0	5
女性	1	0	0	2	1	0	0	4
計	1	1	1	4	2	0	0	9

表-5. 退所者転帰 (人)

	地域生活への移行			再入院	他施設移行	その他	計
	単身自立	グループホーム	家庭復帰				
男性	2	3	1	1	0	0	7
女性	0	1	1	0	0	0	2
計	2	4	2	1	0	0	9

中期経営計画目標: 地域生活への移行8人／年

表-6. 退所者の利用期間 <平均利用期間 1年5か月> (人)

期間	人数	内訳
6か月未満	1	家庭復帰
6か月～1年未満	1	家庭復帰
1年～2年未満	5	単身自立、グループホーム4
2年～3年未満	2	単身自立、再入院
計	9	

表-7. 利用者所轄保健福祉センター (人)

	青葉	宮城野	若林	太白	泉	計
男性	2	2	1	0	0	5
女性	3	0	0	1	0	4
計	5	2	1	1	0	9

表-8. 平均年齢 (歳)

	男性	女性	全体
平均	38.8	39.8	39.3

表-9. 「主たる精神障害」による区分 (人)

診断名	男性	女性	計
統合失調症	4	3	7
鬱病	1	0	1
その他	0	1	1
計	5	4	9

表-10. 障害者手帳取得状況 (人)

	人 数	備 考
精神障害者保健福祉手帳1級	1	
精神障害者保健福祉手帳2級	6	
精神障害者保健福祉手帳3級	0	
その他の手帳	2	
未取得	0	
計	9	

令和5年度 就労移行支援事業所 パルいすみ事業報告

利用者の就労に向け、個々の状態や状況に応じた就労プログラムを実施した。職場見学や就労体験実習などの事業所外プログラムの提供とともに、併設する就労継続支援B型サービスを活用し、きめ細かな就労支援の充実に努めた。また、就職者の職場定着に向けた取組を積極的に行い、就労の継続を図った。

1. 事業内容

(1) 就労支援

令和5年度中に延べ7名の就労支援を行った。利用期間中に職場実習まで行ったが就労につながらず就労継続支援B型事業利用に切り替えた者及び家庭の事情により就労継続支援B型事業利用に切り替えた者が1名ずつ、2か月の暫定支給期間のアセスメントにより就労継続支援B型利用が適当と判断した者が1名、就職に向けて支援を進めている者が4名おり、本年度で就職に繋がった者はいなかった。(中期経営計画目標：3名)

①就労プログラムの実施

事業所内外において、下表のとおりプログラムを実施した。

なお、プログラムの実施にあたってはハローワーク仙台での求人検索等のほか、宮城労働局を通じた職場実習や仙台市障害者就労支援センターと連携し、就労体験実習を実施した。

	プログラム	内 容	実施状況
事 業 所 内	基礎訓練	①活動記録表作成及び振り返りによる生活習慣確立、 自己理解促進 ②文字の書き取り・漢字の読み書き ③計算問題 ④パソコン入力（Word 12コース Excel 6コース、ナビゲーションブック作成）	通所時 個別対応 個別対応 個別対応
	講義 (就労支援シート)	■ステップ1 ○就労に向けた動機づけ ①働く目的 ②働くための準備 ③自分に合った仕事を見つける ④障害開示・非開示 ⑤雇用形態（一般雇用・障害者雇用） ⑥社会資源 ⑦ステップ1のまとめ	7回
		■ステップ2 ○就労に関わる法律 ①労働基準法 ②パートタイム労働法 ③最低賃金法 ④医療保険（健康保険・国民健康保険） ⑤労働保険（労災保険・雇用保険） ⑥年金（国民年金・厚生年金）	7回

		⑦ステップ2のまとめ ■ステップ3 ○就労に必要なビジネスマナー ①第一印象を磨く ②身だしなみ、姿勢、お辞儀 ③コミュニケーション ④敬語、名刺交換 ⑤席次 ⑥話すスピードのトレーニング ⑦電話対応 ⑧履歴書の書き方 ⑨面接（講義編） ⑩面接（実践編）	10回
事業所外	販売訓練	区役所	1回
	ハローワーク	求職者登録、求人検索	7回
	職場見学	①株式会社ケディカ ②小林製薬チャレンジド株式会社 ③株式会社泉パークタウンサービス ④宮城県赤十字血液センター及び日本赤十字社東北 ブロックセンター	1回 1回 1回 1回
	就労体験実習	①小林製薬チャレンジド株式会社 ②文化観光局 水の森温水プール	延べ2回 1回

②ハローワーク仙台・仙台市障害者就労支援センター・宮城障害者職業センター等との連携
仙台市障害者就労支援センターと連携し、2か所で延べ3回就労体験実習を実施した。

③就労後の職場定着支援

障害者雇用及び一般アルバイトの利用者4名を対象に実施した。（中期経営計画目標：9名）
令和元年度に就労した1名は、3か月ごとに定期連絡があり、勤務状況や体調確認を行っていたが、家族状況の変化により令和5年5月に退職した。現在は、パルいすみを利用しながら就職に向けて進めている。令和3年度に就労した1名は、勤務日の体調確認や企業との連携を密に行いサポートを継続している（下欄参照）。その他、2名に連絡し近況の確認を行った。

No.	採用年月	性別	年齢	利用期間	現在の勤務状況	支援状況
1	R 3. 9	男	31	2年6か月	継続勤務中（2年7か月）	勤務日に対応

（2）作業訓練（下請作業・自主製品）

多機能型事業所としてB型事業の生産活動参加の他、販売会参加や企業への納品時に同行する等、役割意識を持って作業に取り組めるよう支援した。

（3）相談支援

①定期面接

3か月ごとに定期的に実施し、課題に対する振返り・個別支援計画の評価・見直しを行った。

②随時面接

利用者の申し出による面接では、課題の整理を行い、生活状況の改善や不安の軽減に向けた助言等を行った。また、職員からの声掛けにより面接を実施し、課題解決や目標達成に向けた働きかけを行った。

(4) 健康管理

①各区で実施する各種健診の情報提供

仙台市市民健診の受診勧奨を行い、受診した利用者からの結果報告を受け、必要な助言・指導を行った。

②軽運動（ラジオ体操・ストレッチ）の実施

毎日、朝のミーティング開始前の深呼吸及びストレッチ、作業開始前のラジオ体操と終了時のストレッチを実施した。作業時間中盤の体操も継続しており、身体を動かす機会づくりに意識的に取り組んでいる。

③健康維持に向けた助言等の支援の実施

季節や時期に応じて、ミーティングや個別対応により健康管理や維持に向けた働きかけを行った。

④定期的な体重・血圧・脈の測定（自己管理意識の向上）

利用者との定期面接（1か月に1回程度）の機会に測定し、働きかけを行った。

(5) 余暇支援（行事・レクリエーション）

①利用者同士の交流を目的とした季節ごとの行事実施

②食事会実施

ランチ	5月	中華風おこわ	11月	栗ご飯、せんべい汁
	6月	生姜焼き定食	12月	ハッシュドビーフ
	8月	夏野菜カレー	2月	あんかけ焼きそば
	9月	舞茸炊き込みご飯、天ぷら	3月	ちらし寿司
	10月	芋煮、炊き込みご飯		
レクリエーション	4月	ゲーム、食事会	10月	バス旅行（岩手県江刺方面）
	7月	映画鑑賞、食事会	1月	ゲーム、書初め、お餅メニュー

(6) 実習生の受け入れ・指導等

実習種別	学 校 名	人 数
精神保健福祉援助実習	仙台白百合女子大学（うち1名は模擬面接実習）	3名
	盛岡医療福祉スポーツ専門学校	3名
	東京福祉保育専門学校	1名
精神看護学実習	東北大学	39名
	宮城大学	17名
	仙台青葉学院短期大学	16名

	葵会仙台看護専門学校	61名
	計	140名

上記のほか、東北文化学園大学で学生に対して講義を行った。(12月)

(7) 就労アセスメントの実施

依頼がなく、実施しなかった。

(8) 仙台市の協議会への参加

泉区障害者自立支援協議会ネットワーク会議（よめごと会議）に4回参加した。

(9) 利用者増のためのPRの強化

広報誌を11月(170部)及び3月(169部)に発行し、行政関係、病院・訪問看護関係、相談支援事業所、障害福祉サービス事業所、教育機関、生産活動・就労関係、役員・関係者へ発送した。

また、ホームページのブログを月1回更新し、活動内容を紹介した。

(10) 地域における取組

事業所近隣の地域医療福祉連携会議（ていーたいむパロス）の世話人会へ加入し、全体会の運営のほか地域課題解決に向けた医療、福祉等の関係者の交流が促進されるよう取り組んだ。

2. 事業実績

表-1. 利用状況月別推移

(人)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開設日数(日)	20	20	22	20	22	20	21	20	20	19	19	20	243
当月在籍者数(定員6名)	3	3	3	2	2	1	1	2	2	1	4	4	—
利用者実人数	3	3	3	2	2	1	1	2	2	1	4	4	—
新規利用者数	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	3	0	4
退所者数	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0	0	1	4
延べ利用者数	50	46	50	32	31	20	21	36	32	19	66	68	471
1日平均利用者数	2.5	2.3	2.3	1.6	1.4	1.0	1.0	1.8	1.6	1.0	3.5	3.4	1.9
利用率(%)	42	38	38	27	23	17	17	30	27	17	58	57	32

※利用率: 延べ利用者数 ÷ (定員 × 開所日数) × 100

※2 中期経営計画目標: 1,200人／年

※3 中期経営計画目標: 5人

表-2. 新規利用者の紹介元

(人)

	当事者・家族	区役所	その他行政機関	医療機関	相談支援事業所	福祉サービス事業所	その他	計
男性	1	0	0	0	0	1	2	4
女性	0	0	0	0	0	0	0	0
計	0	0	0	0	0	1	2	4

表-3. 退所者転帰

(人)

	就労	他事業所	在宅	入院	転居	その他	計
男性	0	0	0	0	0	4	4
女性	0	0	0	0	0	0	0
計	0	0	0	0	0	4	4

表-4. 利用者居住地区分

(人)

	青葉	宮城野	若林	太白	泉	市外	計
男性	0	0	0	0	3	0	3
女性	0	0	0	0	0	0	0
計	0	0	0	0	3	0	3

表-5. 平均年齢

(歳)

	男性	女性	全体
平均	40.0	—	40.0

表-6. 「主たる精神障害」による区分

(人)

診断名	男性	女性	計
てんかん	1	0	1
知的障害	2	0	2
計	3	0	3

表-7. 障害者手帳取得状況

(人)

	人数	備考
精神障害者保健福祉手帳1級	0	
精神障害者保健福祉手帳2級	2	うち身体6級 1
精神障害者保健福祉手帳3級	0	
その他の	1	療育手帳B
計	3	

令和5年度 就労継続支援B型事業所 パルいづみ事業報告

一人ひとりの利用者の目標達成に向け、状況や希望を把握し、個々に合わせたサービス提供に努めた。工賃については、定期的な作業を確実に実施し、単価の高いものを含め新規の下請け作業を受注することができたため、令和4年度実績及び目標を上回る結果となった。

1. 事業内容

(1) 生産活動

工賃向上への取組み（中期経営計画目標平均工賃月額 12,500円以上）

（年間売上合計）

年間売上合計 4,999,475 円（前年度比 163%） (令和4年度実績 3,074,862 円)	下請作業事業 自主製品 (アクセサリー事業)	3,973,775 円 1,025,700 円
---	------------------------------	----------------------------

（平均工賃）

平均工賃月額 時給額	25,373 円（前年度比 139%） 449 円（前年度比 127%）	令和4年度実績 令和4年度実績	18,310 円 355 円
---------------	---	--------------------	-------------------

※令和6年度報酬改定により、平均工賃月額の算定方法に変更があったため、令和4年度実績を変更後の算定方法で計算したものを記載している。

なお、算定方法については以下の通り。

新算定方法：工賃総支給額 ÷ 開所日 1日当たりの平均利用者数 ÷ 12

旧算定方法：工賃総支給額 ÷ 各月の工賃支払い対象者数の総計 (R4 平均工賃月額 9,865 円)

① 下請作業

（事業所内）

- ・アンケート集計・データ入力・AIによる文字起こしの校正
- ・箱折
- ・企業広告等の封入・封かん
- ・漢方茶の計量及び袋詰め
- ・医療用ごみ袋封入
- ・梱包

（外部作業）

- ・企業内の業務

② 自主製品制作

- ・ビーズ製品（アクセサリー、ストラップ等）
- ・手芸製品（アクセサリー）

自主製品については、仙台駅構内での売店、福祉ショップ等の4か所の委託先での販売を継続した。また、県庁職員や仙台市職員を対象とした通販の企画に参加し、自主製品の販売を行った。

販売会については、以下のとおり行った。

販売会名 (実施時期)
区役所販売会：泉区役所（5～6月、8月、10～3月）計9回
泉ヶ丘小学校バザー（9月）
ナイスハートバザール inせんだい（11月）
県庁ロビー働く障害者ふれあいフェスティバル（12月）

（2）相談支援

①定期面接

6ヶ月ごとの個別支援計画の見直しに係る面接実施のほかに、1か月に1回程度の定期面接を実施し、事業所利用状況や生活状況の確認、バイタルチェックなどを実施した。

②随時面接

利用者の申し出による面接では、課題の整理を行い、生活状況の改善や不安の軽減に向けた助言等を行った。また、職員からの声掛けにより面接を実施し、課題解決や目標達成に向けた働きかけを行った。

（3）就労支援

①就労移行支援事業との連携（就労プログラムへの参加等）

本人の就労への意欲や目標に応じ、ステップアップの方法の一つとして利用者に就労移行支援事業の情報提供を行った。

②利用者の希望に沿った支援の実施

定期的な面接場面等を通じて、利用者の意向を適切に把握するように努め、希望に沿った支援を提供できるよう努めた。また、就労した退所者へも本人の状態に合わせて電話連絡や面談を行い、継続できるように努めた。

（4）重度の障害や精神障害を持つ高齢者への支援

①作業環境の整備

個々の活動に合わせて作業に必要な物の配置を行ったほか、移動しやすいよう作業場所を配慮した。

②本人の体力や障害程度に合わせた作業方法の検討及び指導

一人ひとりの状態に応じて作業内容、作業方法について検討し、指導を進めた。

③関係機関との連携

家族や関係機関と必要に応じて連絡調整等を進め、支援を進めた。

（5）健康管理

①各区で実施する各種健診の情報提供

仙台市市民健診の受診勧奨を行い、受診した利用者からの結果報告を受け、必要な助言・指導を行った。

②軽運動（ラジオ体操・ストレッチ）の実施

毎日、朝のミーティング開始前の深呼吸及びストレッチ、作業開始前のラジオ体操と終了時のストレッチを実施した。作業時間中盤の体操も継続しており、身体を動かす機会づくりに意識的に取り組んでいる。

③健康維持に向けた助言等の支援の実施

季節や時期に応じて、ミーティングや個別対応により健康管理や維持に向けた働きかけを行った。

④定期的な体重・血圧・脈の測定（自己管理意識の向上）

利用者との定期面接（1か月に1回程度）の機会に測定し、働きかけを行った。

(6) 余暇支援（行事・レクリエーション）

①利用者同士の交流を目的とした季節ごとの行事実施

②食事会実施

ランチ	5月	中華風おこわ	11月	栗ご飯、せんべい汁
	6月	生姜焼き定食	12月	ハッシュドビーフ
	8月	夏野菜カレー	2月	あんかけ焼きそば
	9月	舞茸炊き込みご飯、天ぷら	3月	ちらし寿司
	10月	芋煮、炊き込みご飯		
レクリエーション	4月	ゲーム、食事会	10月	バス旅行（岩手江刺方面）
	7月	映画鑑賞、食事会	1月	ゲーム、書初め、お餅メニュー

(7) 実習生の受入れ・指導等

実習種別	学校名	人数
精神保健福祉援助実習	仙台白百合女子大学（うち1名は模擬面接実習）	3名
	盛岡医療福祉スポーツ専門学校	3名
	東京福祉保育専門学校	1名
精神看護学実習	東北大学	39名
	宮城大学	17名
	仙台青葉学院短期大学	16名
	葵会仙台看護専門学校	61名
計		140名

上記のほか、東北文化学園大学で学生に対して講義を行った。（12月）

(8) 仙台市の協議会への参加

泉区障害者自立支援協議会ネットワーク会議（よめごと会議）に4回参加した。

(9) 利用者増のためのPRの強化

広報誌を11月（170部）及び3月（169部）に発行し、行政関係、病院・訪問看護関係、相談支援事業所、障害福祉サービス事業所、教育機関、生産活動・就労関係、役員・関係者へ発送した。

また、ホームページのブログを月1回更新し、活動内容を紹介した。

(10) 地域における取組

事業所近隣の地域医療福祉連携会議（ていーたいむパロス）の世話人会へ加入し、全体会の運営のほか地域課題解決に向けた医療、福祉等の関係者の交流が促進されるよう取り組んだ。

2. 事業実績

表-1. 利用状況月別推移

(人)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開設日数(日)	20	20	22	20	22	20	21	20	20	19	19	20	243
当月在籍者数(定員24名)	21	21	21	21	21	22	22	23	22	24	22	21	—
利用者実人数	20	21	21	21	21	22	22	23	22	24	22	21	—
新規利用者数	0	0	0	1	0	1	0	1	0	2	0	0	5
退所者数	0	0	1	0	0	0	0	1	0	2	0	1	5
延べ利用者数	217	222	229	224	229	223	245	237	250	227	185	207	2695
1日平均利用者数	10.9	11.1	10.4	11.2	10.4	11.2	11.7	11.9	12.5	11.9	9.7	10.4	11.1
利用率(%)	45	46	43	47	43	46	49	49	52	50	41	43	46

※利用率: 延べ利用者数 ÷ (定員 × 開所日数) × 100

※2 中期経営計画目標: 4,320人／年

※3 中期経営計画目標: 18人

表-2. 新規利用者の紹介元

(人)

	当事者・家族	区役所	その他行政機関	医療機関	相談支援事業所	福祉サービス事業所	その他	計
男性	0	0	0	0	1	0	3	4
女性	0	1	0	0	0	0	0	1
計	0	1	0	0	1	0	3	5

表-3. 退所者転帰

(人)

	就労	他事業所	在宅	入院	転居	その他	計
男性	0	2	0	0	0	2	4
女性	0	0	0	0	0	1	1
計	0	2	0	0	0	3	5

表-4. 利用者居住地区分

(人)

	青葉	宮城野	若林	太白	泉	市外	計
男性	3	0	0	1	7	0	11
女性	1	1	0	0	8	0	10
計	4	1	0	1	15	0	21

表-5. 平均年齢

(歳)

	男性	女性	全体
平均	49.3	45	47.2

表-6. 「主たる精神障害」による区分

(人)

診断名	男性	女性	計
統合失調症	6	5	11
双極性障害	0	1	1
うつ病	2	1	3
パニック障害	1	0	1
適応障害	0	1	1
情緒不安定型パーソナリティ障害	0	1	1
高次脳機能障害	1	0	1
知的障害	1	1	2
計	11	10	21

表-7. 障害者手帳取得状況

(人)

	人数	備考
精神障害者保健福祉手帳1級	1	
精神障害者保健福祉手帳2級	14	・うち療育手帳B 1
精神障害者保健福祉手帳3級	2	
その他の	4	・うち身体障害者手帳1級、療育手帳B 1 ・うち療育手帳B 3
計	21	

令和5年度 就労継続支援B型事業所 パル三居沢事業報告

利用者一人ひとりが安心して通所し、自らの目標に向けて活動できるよう個別支援計画を丁寧に見直し、きめ細やかな支援に努め、魅力ある事業所作りを目指した。

作業に関しては、利用者の要望に応じた多様な作業の開拓に努めた結果、通販商品の出荷作業やポスティング作業等新たな作業を確保した。また自主製品に関しては、新規製品の開発及び販売を行った。

さらに利用者獲得及び利用率向上のため、事業所リーフレットを作成し、関係機関へのPRに積極的に取り組んだ。

1 事業内容

(1) 生産活動

- ・工賃向上への取り組み

(年間売上合計)

年間売上合計 2,769,210 円 (前年度比 116%) (令和4年度実績 2,380,464 円)	下請作業	1,905,410 円
	外部作業 (清掃、除草)	741,400 円
	自主製品 (キャンドル、手芸品)	122,400 円

(平均工賃)

平均工賃月額 時給額	23,787 円 (前年度比 111%) 445 円 (前年度比 109%)	令和4年度実績 令和4年度実績	21,471 円 410 円
---------------	---	--------------------	-------------------

※令和6年度報酬改定により、平均工賃月額の算定方法に変更があったため、令和4年度実績を変更後の算定方法で計算したものを記載している。

なお、算定方法については以下の通り。

新算定方法：工賃総支給額 ÷ 開所日 1日当たりの平均利用者数 ÷ 12

旧算定方法：工賃総支給額 ÷ 各月の工賃支払い対象者数の総計 (R4 平均工賃月額 11,289 円)

作業種目ごとに利用者の障害特性を活かした効率的な作業工程・手法を提案し、多くの利用者が参加できる環境を整えた。また関係機関や受注先との連携を密にし、安定した受注量の確保に努めた結果、年間売上金額及び平均工賃月額が昨年度を上回ることができた。

①下請作業

- ・医療用コルセット組立て
- ・企業広告等の封入・封緘
- ・箱折
- ・通販商品出荷作業

②外部作業

- ・清掃作業
- ・除草作業

- 刈り草収集作業

③自主製品制作

- 手芸製品（アクリルたわし、帽子、リース等）
- オリジナルキャンドル

（2）相談支援

利用者や家族からの生活面での相談など個々の相談に対しては真摯に向き合い、不安解消等に向けた適切な助言・指導を行った。

①定期面接 6か月以内の個別支援計画の見直しに向けた定期面談を適宜実施した。

②随時面接 必要に応じて実施した。

（3）就労支援

将来的に一般就労を希望する利用者に対し、面接場面を通し本人の意向の把握に努め、希望に沿った支援が提供できるよう助言や情報提供に努めた。

（4）重度の障害のある者や高齢精神障害者への支援

重度の障害のある者や高齢精神障害者を積極的に受け入れ、社会参加の促進を図った。

①利用者の多くが作業参加できる環境を整えた。

②個々の利用者の体力や障害特性を踏まえた作業工程・手法を提案した。

③関係機関との連携を深め支援の質を高めた。

（5）健康管理

利用者の健康増進、維持に努めた。

①各区で実施する各種検診の情報を提供した。

②ラジオ体操を実施した。

③COVID-19について第5類移行後の対応や予防策について健康講話を7月14日に実施。

当日は利用者10名が参加した。

④健康に関する自己管理意識の動機づけを行った。（体重や血圧の測定等）

（6）余暇支援（行事・レクリエーション）

利用者間や職員との交流など事業所内全体の親睦を深めることを目的に、利用者の希望を反映させた季節の行事やレクリエーションを企画した。

4月	お花見（弁当）・クイズ	10月	バス旅行（名取・岩沼方面）
5月	食事会（キーマカレー）・音楽鑑賞	11月	芋煮会
6月	食事会（丸亀うどん） 外出（緑化フェア）	12月	外出（ホテルビュッフェ）
7月	食事会（土用丑の日）・ゲーム	2月	食事会（弁当）・スライドショー
8月	食事会（冷やし中華）・ゲーム	3月	食事会（海鮮丼）・漫才観覧

9月	バーベキュー		
----	--------	--	--

(7) 広報活動

法人・事業所の広報誌、ホームページ、ブログ等の活用や訪問活動を拡充し、事業内容等を広く紹介することで、新たな利用者の受入れや新規受託作業の獲得に努めた。

特に、ホームページ内のブログの更新は、月に1回の頻度で行い、作業活動のほか販売会やレクリエーションの内容等を積極的に紹介した。

(8) 実習生の受け入れ・指導

福祉専門職、看護師等の養成に協力するため、COVID-19 予防策について学校側とも協議して取り組み、実習生を受け入れ指導した。

実習種別	学 校 名	人 数
精神保健福祉援助実習	東北福祉大学	4名
	仙台白百合女子大学	1名
社会福祉援助実習	東北福祉大学	8名
精神看護学実習	東北大	26名
	仙台青葉学院短期大学	19名
	葵会仙台看護専門学校	65名
	宮城大学	12名
		135名

2.事業実績

表-1. 利用状況月別推移

(人)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開設日数(日)	20	20	22	20	22	20	21	20	20	19	19	20	243
当月在籍者数(定員20名)	18	17	17	16	16	16	16	17	17	17	18	18	—
利用者実人数	18	17	17	16	16	16	15	14	16	15	14	15	—
新規利用者数	1	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1	1	5
退所者数	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	1	0	4
延べ利用者数	185	206	221	169	167	170	180	159	181	156	156	206	2156
1日平均利用者数	9.3	10.3	10.0	8.5	7.6	8.5	8.6	8.0	9.1	8.2	8.2	10.3	8.9
利用率(%)	46	52	50	42	38	43	43	40	45	41	41	52	44

※利用率: 延べ利用者数 ÷ (定員 × 開所日数) × 100

※2中期経営計画目標:4,320人／年

※3中期経営計画目標:18人

表-2. 新規利用者の紹介元

(人)

	当事者・家族	区役所	その他行政機関	医療機関	相談支援事業所	福祉サービス事業所	その他	計
男性	0	1	0	0	2	0	1	4
女性	0	0	0	0	1	0	0	1
計	0	1	0	0	3	0	1	5

表-3. 退所者転帰

(人)

	就労	他事業所	在宅	入院	転居	その他	計
男性	0	1	2	0	0	0	3
女性	0	0	1	0	0	0	1
計	0	1	3	0	0	0	4

表-4. 利用者居住地区分

(人)

	青葉	宮城野	若林	太白	泉	市外	計
男性	10	0	0	2	0	0	12
女性	4	0	1	1	0	0	6
計	14	0	1	3	0	0	18

表-5. 平均年齢

(歳)

	男性	女性	全体
平均	57.2	51.0	54.1

表-6. 「主たる精神障害」による区分

(人)

診断名	男性	女性	計
統合失調症	8	2	10
うつ病	1	1	2
強迫性障害	1	1	2
知的障害	1	0	1
不安障害	0	1	1
身体障害	1	0	1
広汎性発達障害	0	1	1
計	12	6	18

表-7. 障害者手帳取得状況

	人数	備考
精神障害者保健福祉手帳1級	2	うち療育手帳B1
精神障害者保健福祉手帳2級	12	うち療育手帳B1
精神障害者保健福祉手帳3級	2	
身体障害者手帳	1	
療育手帳	1	
計	18	

令和5年度 障害者相談支援事業所 ほっとすペーす事業報告

障害者相談支援事業では、精神科病院に入院している方への退院支援や、多領域にわたる複雑な生活課題がある障害者や家族等に対する支援を行政機関や医療機関等と連携しながら行った。延べ利用者数は、電話相談や面接相談等も含めて目標の4,000件に対して6,572件と上回った。

また、障害者への支援体制の整備を図ることを目的に青葉区障害者自立支援協議会（サポネットあおば）に参画し、実務者ネットワーク会議（サポネットあおばのつどい）、地域展開チーム（国見フォロー）の運営を担った他、地域課題の取組等について検討した。

計画相談支援では、障害福祉サービスを利用する方々にサービス等利用計画の作成や調整を行い、地域生活を支援した。

I 事業内容

1. 障害者相談支援事業（委託相談支援）

(1) 障害者相談支援業務

令和5年度は、249名の利用者が委託相談支援を利用しており、うち61名が新規利用者となっている。

支援内容としては、302回の訪問、59回の面接、113回の同行支援を実施。また、個別支援会議を774回、関係機関との連絡調整を1,934回、その他電話相談等の支援と合わせると延べ6,572件の支援を行った。

（中期経営計画目標：委託相談支援事業延べ利用者数4,000件）

① 福祉サービスの利用援助事業

仙台市権利擁護センター（まもりーぶ仙台）や成年後見制度、移動支援などの利用に関する情報提供や助言、各種手続きに関する助言や同行、ホームヘルパーによる居宅介護、短期入所等の利用に係る調整や援助を行った。

また障害福祉サービスから介護保険移行に伴う調整を地域包括支援センターと連携して行い、6名の利用者が介護保険に移行した。

② 社会資源を活用するための支援事業

利用者の希望を確認し、就労移行支援事業所や就労継続支援事業所、自立訓練事業所、共同生活援助事業所等の紹介や見学の同行等を行った。また、住居探しのための情報提供や同行も行った。

③ 社会生活力を高めるための支援事業

関係機関や障害福祉サービス事業所等とも連携しながら、健康、服薬、金銭管理、家事、趣味や余暇活動の充実など自立した社会生活を営むことができるよう必要な支援を行った。

④ 専門機関の紹介事業

利用者のニーズを把握した上で、各種専門機関の紹介を行った。また、発達障害や知的障害のある方、病識が不十分な方等について、専門機関と連携しながら支援を行った。

⑤ 障害者ケアマネジメントに関する事業

各区保健福祉センター等の関係機関とも連携しながら、利用者の希望を確認し、それぞれが持っている力を活かせるよう支援を行った。また本人との信頼関係の構築を図りながら、家族の相談にも応じた。

また、入院中の利用者の退院へむけた支援として、70回の訪問を実施した。

（中期経営計画目標：入院から退院に向けた支援件数60件）

⑥ 地域住民等に対する普及啓発に関する事業

一般社団法人コスマス成年後見サポートセンター研修会、仙台市立立町小学校社会学級に講師として参加。8050問題の基礎知識と支援事例の報告、発達障害の基礎知識について説明した。

3月に「8050問題ってなんだろう?」をテーマで、ケアマネージャーと障害当事者を講師に講演会を実施した。

更に、月1回程度ブログを更新し活動内容の紹介を行った他、広報誌「ほっとすペーす便り」を下記の通り発行した。

区分	部数	配 布 先
		7月
利用者	122	
関係機関	64	仙台市健康福祉局関係部署、精神科病院及びクリニック、宮城県及び仙台市社会福祉協議会、障害福祉サービス事業所、障害者相談支援事業所、法人役員など
計	186	

⑦ その他生活支援に関すること

福祉サービスに関する支援等に限らず、居室の掃除等、利用者の生活全般における困りごとに対して支援を行った。

⑧ 障害者同士が自主的に交流できる場や地域住民との交流を図るための場を提供する事業

誰もが自由に利用できるフリースペースとしてサロンの場を提供し、必要に応じて来所者の個別相談を実施した。

(2) 障害者虐待の防止に係る業務

利用者支援にあたり、関係機関と連携しながら虐待の未然防止や早期発見の観点をもって支援を行った。また障害者虐待防止・権利擁護研修に参加し意識向上に努めた。

(3) 障害を理由とする差別の解消に係る業務

差別に関する相談は受けていないが、関係機関と連携しながら障害を理由とする差別の解消を図れるよう利用者支援を行った。

2. 指定特定相談支援事業（計画相談支援）

障害福祉サービスの利用を支援するために91名と計画相談の契約を締結しており、68件のサービス等利用計画の作成、サービス担当者会議の開催、モニタリングなど、個々の利用者の状態に応じた継続的な支援を行った。

（中期経営計画目標：計画相談利用者実人数100名）

計画相談利用者に対し、583回の訪問、14回の面接、42回の同行支援を実施。アセスメントや障害福祉サービスの利用支援を丁寧に進めた。また、個別支援会議を267回、関係機関との連絡調整を2,092回を行い、障害福祉サービス事業所や行政、医療機関等と連携を図った。

3. 指定一般相談支援事業（地域相談支援）

(1) 地域移行支援

救護施設からの地域移行を支援するために1名と契約を締結し、グループホームへの移行と就労継続支援B型事業所の利用支援を行った。

(2) 地域定着支援

支援対象者がおらず、実施していない。

4. 指定障害児相談支援事業

支援対象者がおらず、実施していない。

5. 仙台市の協議会等への参加

(1) 青葉区障害者自立支援協議会

障害者への支援体制整備に向けて、青葉区障害者自立支援協議会（サポネットあおば）の事務局として運営会議に12回参加した。また、サポネットあおばの会議体として実務者ネットワーク会議（サポネットあおばのつどい）と地域展開チーム（国見フォロー）を担当した他、相談支援事業所等連絡会、青葉区高齢者障害者地域会議へ参加した。

○実務者ネットワーク会議（サポネットあおばのつどい）：青葉区内の関係機関のネットワークの緊密化を促進するために、対面で参加事業所の近況や情報共有、障害分野と高齢分野での協働支援をテーマに2回実施した。

○地域展開チーム（国見フォロー）：国見地域周辺で支援に関わっている人・団体の得意分野を活かし地域の暮らしを支えるための繋がりの場を作ることを目的に、「くにみゆるつとつながろうの会（ゆるっく～地域でつながろうの会～）」を国見コミュニティセンターで6回開催。地域活動に関する話題提供や意見交換を行った。また、10月に貝ヶ森中央公園にて「貝ヶ森だヨ！全員集合ふらっと寄りみち軽体操」を実施。運営には障害当事者や児童館を利用する児童たちも携わり、年齢や障害の有無に関係のない地域住民の集いの機会となった。

○相談支援事業所等連絡会：青葉区内の指定特定相談支援事業所、委託相談支援事業所、地域生活支援拠点、青葉区障害高齢課、宮城総合支所保健福祉課・障害高齢課、基幹相談支援センターが参加し、相談支援に有効な話題提供、重点的に関わる対象者のケースレビュー及び事例検討を11回実施し、支援力の向上に努めた。

○青葉区高齢者障害者地域会議：高齢分野と障害分野の支援機関の連携及び地域の支え合いの体制作りを目的に、地域での取り組みの共有と検討を1回実施した。

(2) 仙台市自立支援協議会 評価・研修部会

部会委員として、評価・研修部会（1回）、企画会議（4回）に参加し、仙台市障害者ケアマネジメント従事者養成研修の企画及び仙台市障害者相談支援事業所運営自己評価の実施について協議した。

(3) 相談支援事業所連携会議

旧精神の委託相談支援事業所の事業運営や自立支援協議会の活動等について、情報共有と意見交換を1回行った。

II 事業実績

1. 委託相談支援実施状況

表-1. 利用者状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用者実人員	障害者	97	80	101	89	92	86	80	104	98	101	96
	障害児	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	97	80	101	89	92	86	80	104	98	101	96
(人)												

表-2. 支援方法

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
訪問	16	25	25	25	18	24	29	33	30	30	24	23	302
来所相談	7	3	4	5	4	4	4	4	4	11	2	7	59
同行	10	11	11	4	5	12	12	11	10	8	8	11	113
電話相談	343	312	377	280	246	242	219	298	296	259	274	244	3390
個別支援会議	68	37	69	48	59	68	55	89	67	70	66	78	774
関係機関	130	128	190	132	120	142	210	197	160	190	169	166	1934
交流室	7	2	9	2	2	1	1	0	1	1	3	2	31
計	581	518	685	496	454	493	530	632	568	569	546	531	6603

表-3. 支援内容

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
福祉サービスの利用等	215	173	225	156	177	233	280	300	223	232	222	237	2673
障害や症状の理解	15	17	21	19	11	11	13	10	15	13	10	13	168
健康・医療	64	71	127	86	78	116	108	98	92	73	98	77	1088
不安の解消・情緒安定	302	277	332	268	225	216	190	241	265	250	256	228	3050
保育・教育	0	2	0	4	0	0	0	0	1	1	2	1	11
家族関係・人間関係	40	41	54	42	57	47	54	29	51	56	37	41	549
家計・経済	37	37	51	34	24	32	47	48	36	34	30	29	439
生活技術	28	25	40	23	30	23	31	43	39	45	34	42	403
就労	7	8	4	7	7	9	8	8	13	16	16	10	113
社会参加・余暇活動	2	3	1	5	3	3	4	4	3	6	7	6	47
権利擁護	3	9	8	4	9	4	5	3	5	9	11	2	72
その他	7	0	14	25	11	0	0	0	0	0	0	0	57
計	720	663	877	673	632	694	740	784	743	735	723	686	8670

表-4. 利用実人員内訳

	実人員	身体障害	重症心身障害	知的障害	精神障害	発達障害	高次脳機能障害	難病	その他
障害者	249	5	0	11	235	15	2	1	3
障害児	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	249	5	0	11	235	15	2	1	3

表-5. 新規相談者の紹介元

	当事者・家族	区役所	その他行政機関	医療機関	福祉サービス事業所等	地域包括支援センター・居宅介護支援事業所	地域関係者	その他	計
実人員	23	18	3	2	9	3	0	3	61

表-6. 相談支援を利用している障害者等のうち、支援終了としたもの

実人員	38
-----	----

表-7. 個別支援会議の内訳

	ほつとす ペース 主催	他機関 主催	所内での 事例検討	計
件数	17	27	730	774

2. 計画相談支援実施状況

表-1. 利用者状況

(人)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
利用者実人員	障害者	66	56	66	66	62	68	64	60	62	59	64	65
	障害児	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	66	56	66	66	62	68	64	60	62	59	64	65

表-2. 支援方法

(件数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
訪問	52	49	52	60	56	46	45	39	46	43	45	50	583
来所相談	4	0	1	1	0	1	2	2	3	0	0	0	14
同行	0	4	4	2	4	5	3	6	7	0	3	4	42
電話相談	68	68	66	83	110	101	83	93	79	74	91	101	1017
個別支援会議	28	17	21	30	22	23	32	15	18	22	20	19	267
関係機関	123	177	202	172	190	171	147	183	186	198	160	183	2092
交流室	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	275	315	346	348	382	347	312	338	339	337	319	357	4015

※交流室は委託相談支援実施状況にまとめて記入

表-3. 支援内容

(件数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
福祉サービスの利用等	251	275	311	296	321	291	280	265	243	280	269	292	3374
障害や症状の理解	5	5	4	2	12	8	2	7	11	9	9	12	86
健康・医療	38	74	86	67	83	84	58	59	92	79	71	91	882
不安の解消・情緒安定	46	41	49	56	88	73	55	51	68	55	64	65	711
保育・教育	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2
家族関係・人間関係	26	18	16	35	44	46	23	27	35	44	18	28	360
家計・経済	16	13	27	25	25	23	26	37	46	30	24	27	319
生活技術	5	14	10	4	6	5	11	14	16	18	8	16	127
就労	5	2	7	10	9	16	14	7	10	8	12	12	112
社会参加・余暇活動	3	3	1	3	7	3	2	1	2	5	5	2	37
権利擁護	2	1	0	1	0	0	0	0	9	4	1	1	19
その他	0	0	1	1	2	3	2	1	0	0	0	0	10
計	397	446	513	501	597	552	473	469	532	532	481	546	6039

表-4. 利用実人員内訳

(人)

	実人員	身体障害	重症心身障害	知的障害	精神障害	発達障害	高次脳機能障害	難病	その他
障害者	91	4	0	5	90	0	0	0	0
障害児	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	91	4	0	5	90	0	0	0	0

表-5. 新規相談者の紹介元

	当事者・家族	区役所	その他行政機関	医療機関	福祉サービス事業所等	地域包括支援センター・居宅介護支援事業所	地域関係者	その他	計
実人員	6	0	0	0	1	0	0	0	7

表-6. 相談支援を利用している障害者等のうち、支援終了としたもの

実人員	9
-----	---

表-7. 個別支援会議の内訳

	ほつとす ペーす 主催	他機関 主催	所内での 事例検討	計
件数	84	10	173	267